



～ICTで紡ぐ「論理」と「表現」の確かな学び～

本校では「筋道立てて考え、自ら表現する児童生徒の育成」を主題に掲げ、ICTの効果的な活用を通じた授業改善に励んでいる。その土台となるのは、互いの個性を認め合い、安心して思いを表現できる「共感的人間関係」である。

ICTの活用は発達段階に応じて系統化している。低学年はカードや写真を並べ替え、考えを視覚的に共有する。中学年からは「思考ツール」を本格的に導入し、ミラーリングなどを活用して自分の考えを分かりやすく説明する力を養う。高学年では、二画面表示や複数の思考ツールの切り替えを自ら選択し、情報を比較・関連付けながら考えを再構成していく。

授業の終末には「ふりかえりポイント」を提示し、学びを自らの言葉で言語化させることで、確かな成長を実感できるよう工夫している。タブレットという道具を手にも、子供たちが対話を通して新たな価値を創り出していく。そんな自律した学習者の姿を、これからも追求していきたい。

(呉市立横路小学校・高橋 伸治)

- 4月4日 会計監査 (事)
 - 4月4日 第一回幹事会 (東区)
 - 4月17日 第一回理事会 (東区)
 - 4月23日 第一回各委員会 (東区)
 - 4月23日 第二回幹事会 (東区)
 - 4月27日 県公連理事會 (東区)
 - 5月8日 県公連評議員会 (東区)
 - 5月12日 県公連不祥事防止対策特別委員会 (東区)
 - 5月14日 第77回県連小総会 (東区)
 - 5月21日 全連小理事會・常任理事會 (東区)
 - 5月22日 全連小総会 (東区)
 - 6月1日 全連小事務担当者連絡協議會 (東区)
 - 6月3日 第三回幹事會 (東区)
 - 6月3日 教育研究全体委員会 (東区)
 - 6月4日 県公連専門委員会合同會議 (東区)
 - 6月10日 県公連理事會・評議員會 (東区)
 - 6月12日 第一回総務會 (東区)
 - 6月12日 中国地区広島大会大会実行委員会 (東区)
 - 6月12日 第一回県市連絡協議會 (東区)
 - 6月15日 全連小合同部會・合同委員会 (東区)
 - 6月16日 県公連不祥事防止対策特別委員会 (東区)
 - 6月19日・20日 全連小常任理事會・引継會 (東区)
 - 6月30日 全連小広報担当者連絡協議會 (東区)
 - 7月2日 第二回理事會 (東区)
- ※会場の略号
- (事) 県連小事務局
 - (東区) 東区民文化センター

事務局日誌

発行所
広島県連合小学校長会
事務局
東区光町1-11-5
地産ビル1003号
電話 (082) 263-6381
発行者 高尾俊寛

もくじ	
ICTで紡ぐ「論理」と「表現」の確かな学び	1
委員会報告	3
朝会講話	5
県教委だより	6
随想	6
あとがき	6

会長あつらひ



ともに喜び

ともに支え合う

ファミリィ県連小!

会長 高尾俊寛

五月十四日に、第七十七回広島県連合小学校長会総会・研究大会を実施することができました。いよいよ一年間の県連小の活動がスタートです。

総会・研究大会では、インプットして終わるのではなく、しっかりと議論していただける時間を大切にしようという幹事の校長先生方とともに内容を考えました。熱心に協議がなされている会場の様子を拝見する中で、校長先生方の力で参集することの意義を見出し、実りある一日とすることができたと感じています。心から感謝申し上げます。

県連小の総会のあった翌週、全連小の常任理事会と総会があり東京に行ってきました。この一年間は全連小の常任理事として東京での会議などに多く出席することとなります。常任理事としての責任を感じつつも、初めて会う他県の校長先生方と早く関係を作ろうと、話しかけたり、情報交換をしたりしました。その中で思ったことがあります。それは、県連小の校長先生方の顔を見て話をするのが、私の中でど

れだけ安心できる場所であるのかということです。それを再確認しました。ともに喜び合い、ともに励まし合い、時には厳しいことを言い合うこともあるかもしれません。それができるのは県連小に集う校長先生方とのつながりが、まるでファミリィのような絆で結ばれているからだと思っています。そんな思いを抱えている中でも、社会情勢の変化は、私たちが想像するよりも早く複雑になっています。二〇五〇年には、生産年齢が総人口のおよそ半分になっていると言われています。その時には、目の前にいる小学生が三十代半ばとなり、まさに社会を支えている世代となっています。その一方で、企業の寿命は短くなりつつあると言われて、さらに定年延長にも見られるように職業人としての寿命は長くなっています。二〇二五年の新人社員に対して行われたキャリアアトレンド研究所の意識調査では、三年以内で転職すると答えた割合は二二%で十年以内だと五〇%を超えています。さらに、情報化社会の中で正しい情報と虚偽の情報と

が入り混じっている社会にもなっています。このように、社会情勢が急激に変化する中で、私たちは目の前の子供たちにどんな力を付けていかなければいけないのでしょうか。私は、自分の未来を見据え自己決定する力が重要になってくると感じています。学校生活のあらゆる場面において、子供たち自身が自己選択する場面や、自分の考えをもち自己決定する場面を増やす必要があると思います。そのためには、判断力を高め先を見通す力を子供たちに付けることが必要です。そのことを意識して子供と関わっていく先生方の指導力も高めていかなければなりません。私たち校長の責任はこれまで以上に大きくなっているのだと思います。

校長の大きな学びの場である、中国地区小学校長教育研究大会が今年度は広島県で行われます。会場となる福山市では現地実行委員会の福山市校長会の先生方が、万全な体制で準備を進めてくださっています。全ての分科会において広島県内の校長先生方が積極的に発言をしていただき、他県の校長先生方が、「広島に来てよかった。」「元気をもらえた。」と思ってもらえるように、皆様の力で大会を盛り上げていきましょう。

最後になりましたが、県内全ての校長先生方のご活躍とご健康を心よりお祈りし、挨拶とさせていただきます。

(福山市立松永小学校)

第77回 広島県連合小学校長会総会・研究大会

とき 令和8年5月14日(木)
ところ 広島県民文化センター

- 1 開会行事
- 2 会議
- 3 研修
「広島県の小学校長に期待すること」
広島県教育委員会
乳幼児教育・生涯学習担当部長(兼)参与
蓮浦 顕 達 様
- 4 講演
「多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに」
—学習指導要領の改訂を視野に入れて—
講師 文部科学省初等中等教育局主任視学官
田 村 学 様
- 5 閉会行事



退会校長紹介

【廿日市市】 平良 二野宮大英 地御前 戸崎志乃婦

新入会校長紹介

【大竹市】 大竹 大井 一徳

Table with 4 columns and 10 rows listing members from various cities like Hiroshima, Yamaguchi, and Hiroshima. Columns include names and their respective municipalities.

委員会報告

教育調査委員会

委員長 藤井弘之

本委員会は、広島県内公立小学校の実態把握とその課題について整理し、これらの課題の改善・充実のための根拠資料を作成することを主たる目的として活動する。本年度は昨年度の検討内容を踏まえ、調査項目の精選、調査方法の合理化を図るとともに、現場における教育諸条件の整備・拡充に資する資料とすべく、次の活動を行うこととしていた。

一 活動内容

○ 令和七年度の調査項目を継承し県内小学校における現状と課題にかかる調査として「白書の調査」を作成する。さらに喫緊の課題に対応する調査として「特別調査」を実施する。

○ 調査結果の集計、分析を実施、課題の整理を行い、課題改善のために必要なことを提言としてまとめ、県連小総務会並びに理事会に提出する。また、県教委との意見交換会で提起する。

○ 調査項目、調査方法等について現状認識とのずれや実態に合っているか等について検討し、次年度の教育調査項目案を作成する。

二 活動計画の概要

- 四月 各委員選出・活動方針・活動内容の検討・活動計画確認、調査項目の検討、調査方法の確認
五月 調査実施
六〇七月 調査分析役割分担、集計・結果のまとめ、考察内容の検討、報告書案の検討
八月 報告書内容の最終検討
九〇十月 「教育調査」報告書の作成
・発行・配布、県教委への要望書作成
十二月 次年度実施調査内容等の検討
申し送り事項の確認
一月 次年度の方向性の確認

(尾道市立三幸小学校)



人事給与委員会

委員長 香川 隆太

本委員会では、第一回（四月）の人事給与委員会全体委員会において、昨年度の検討事項や申し合せ事項等を踏まえ、本年度の役員を選出し、活動方針・活動計画等を決定した。
その主な内容は次のとおりである。

一 活動方針

県連小の活動方針を受け、次のように設定した。

- 明確な人材育成方針・体制のもと、教職員としての使命感や倫理観、個々の実践的指導力の向上に努める。
 - 教職員の職責に相応する適正な処遇が得られるように努める。
- 教育改革の趣旨に添った校長を中心にした学校経営が進むよう、とりわけ、本委員会においては、人事・給与面で裁量の幅が広がるよう努力していく。また、市町の教育委員会と校長会との連携を深め、より望ましい学校経営に寄与していく。

二 活動計画の概要

四月

- 役員選出・活動方針・活動計画等についての決定
- グーグルフォームを活用した実態

調査の集約・分析・考察及び県教委との懇談会資料作成
十月～十二月

- 人材育成に係る研修会
- 次年度実態調査内容の検討
- 本年度の活動のまとめ及び次年度の課題についての検討
- 児童の転校についての調査依頼
- 次年度活動方針・活動計画の作成
(呉市立明立小学校)

教育研究委員会

委員長 花田 修

本委員会では、研究主題「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」、副主題「夢や志をもち 他者と協働して 主体的に新たな価値を創り出す子どもを育成する学校経営」に基づき、第一回全体委員会で令和八年度の活動方針、活動計画を次のように決定した。

一 活動方針

広島県連合小学校校長会活動方針に基づき、中国地区小学校長会教育研究大会広島大会が開催される節目の年であることを契機として、小学校長が抱える課題意識に対する具体的なアプローチを探究する。

具体的には、持続可能な学校経営の要となる「人材育成」および「組織開発」を重点テーマに設定し、本委員会として実践的な研究を行い、その成果を校長会へ広く還元する。
これらの研究成果を積極的に発信し、全県的な共有化を図ることで、小学校長の更なる力量形成に寄与し、多様な人材が活躍する組織づくりの推進を目指す。

二 活動計画の概要

先行研究や理論に基づいた実践を共有するとともに、現任教や各地域の実態に即した実践を創る研修を進めていく。また、今年度は、第七十三回中国地区小学校長会教育研究大会広島大会（十一月二十日）が開催される。本大会では広島県としての研究の成果を発信するとともに、参加者相互の学び合いを通して、これからの学校経営を担う実践研究者としての力量を一層高めていきたい。

(福山市立加茂小学校)

広報委員会

委員長 増上 正美

本委員会では、第一回（四月）広報委員会において、役員を選出を行い、令和八年度の活動方針、活動計画を次のように決定した。

一 活動方針

- 県連小・各機関の会議・会合の審議決定並びに実施状況について迅速的確に伝達する。
- 会員の意思や、校長会の活動を収集伝達し、交流を図る。
- 会員及び校長会に、職務遂行、資質向上、学校経営充実に生かせる情報を提供する。

二 活動計画の概要

① 会報二回

(第一九八号・第一九九号)の発行(校長にはメール配信とする) 会報には、トピックス、挨拶、退・新任校長紹介、委員会報告、地区校長会報告、学校経営、朝会講話、県教委日より、随想などを掲載する。
(七月・十二月)

② 研究集録「もみじ」(令和八年度版第三十七号)の発行
(三月)

③ 速報の発行・配付

・ 県連小速報 年五回程度
・ 全連小速報 年数回程度

④ 全連小「小学校時報」への寄稿
テーマに従い執筆依頼・連絡などをを行う。
(東広島市立豊栄小学校)

朝会講話

阿品台西小学校オリジナルソング

「大きなケヤキを

そだてたい」

この曲に込められた思い

副会長・理事 齊藤 達治

小学校の正門をくぐると、2本のケヤキが訪れる人を迎えてくれる。いつしか「双ケヤキ」と呼ばれるようになり、今も本校のシンボルツリーとして親しまれている。

これらの木は、四十年以上前の学校創立記念に植えられたものだ。右のケヤキは「先生」、左のケヤキは「保護者」を表し、その間には「子供」としてモクレンが植えられたという。しかし、モクレンは現在残っていない。

かつてケヤキとモクレンが枯れかけた時期があった。当時の子供たちは大人の力を借りながら、根を傷つけないよう慎重に掘り起こし、水を吸えるように必死で世話をした。その努力によってケヤキは元気を取り戻した。その一方でモクレンは惜しくも力尽きて枯れてしまった。

それから当時の先生方が当時の子供たちの思いを歌にくれた。この表題である「大きなケヤキをそだてたい」

という本校オリジナルソングだ。子供たちも大好きな歌で、本校の節目に当たる行事で、今もなお、歌い継がれている。

先生や子供たちが今、当たり前のように歌っているこの歌をメロデーとともにこの歌に込められた思いも受け継いでいきたい。そんな思いから歌詞を玄関に掲示した。

(廿日市市立阿品台西小学校)

「FINAL」

つなぐ誇りと

未来への希望

会員 曾根 奈美枝

皆さんは、玄関前にある「培根達支(ばいこんたつし)」と刻まれた石碑を、どんな思いで見つめているでしょうか。この言葉には、「目に見えない土台となる『根』をしっかり張れば、目に見える成果としての『枝』が伸び、やがて大樹となって栄える」という意味があります。これこそが、本校の「建学の精神」です。

重井小学校は、今年度をもって閉校を迎えます。しかし、学校がなくなっても、私たちが築き上げてきた「伝統」と「誇り」が消えるわけではありません。たとえば、六十一年の歴史を誇る「トランペット鼓隊」。その誕生は、地域の方々の「子供たちに誇りを！」という願いからでした。だから、皆さん

は、伝統のバトンを引き継いできたのです。皆さんは、トランペット鼓隊を通して、音を揃える難しさ、心を一つにする尊さ、そして努力を積み重ねる大切さを学んできたはずですよ。また、五・六年生が、取り組んでいる尾道の特産物「わけぎ」の活動。これも、十五年間続いていきます。植え付けから収穫、梱包、販売、調理までの一連の体験を通して、皆さんは、農業の大変さや「食」への感謝を学んだことでしょうか。

最後に飾る今年、皆さんに二つのことを期待します。一つ目は、お世話になつていらっしゃる地域の方々へ、言葉と行動で皆さんの「ありがとう」を伝えること。二つ目は、次のステージに向けた準備をすること。重井小学校で過ごす、かけがえのない一日一日を大切に、そして、来春の「因北中学校区小中一貫教育校」開校に向けて、最高のスタートが切れるよう、自分をたくましく育てていきましょう。

(尾道市立重井小学校)

「運動会テーマ

『限界突破』に向けて」

理事 新谷 勇

五月二十四日は、皆さんが楽しみにしている酒屋地区合同運動会です。毎日練習を頑張っていますね。

ところで、今年度の運動会テーマは

何ですか。児童会執行部のメンバーが校舎の窓に掲示をしています。そう、「限界突破」です。児童会執行部が考えて、皆さんに提案した目標です。では、運動会で「限界突破」とは、どういうことですか。

(執行部児童) 「限界突破とは、自分ができることを超えて、もつともつとすごい力を出すことです。一生懸命走ったり、精一杯応援したりして、自分の力の百パーセントを超えて百二十パーセント出すことです。」

なるほど、皆さんも納得ですか。本気で演技して、本気で友達に声援を送り、力の限りやり切るようチャレンジするということですね。

本番で「限界突破」するために大切なことは、練習でも出し惜しみをしないこと。ただし、「限界突破」と無理をすることは違います。健康と安全第一でいきましょう。

この運動会は、成長した自分をお家の人や地域の方に見ていただく絶好の機会でもあります。一年生は、小学生になって初めての運動会。二年生から五年生は、一つ学年が上がってレベルアップする運動会。六年生は、小学校生活最後の運動会です。今年度、高学年は「よさこいソーラン」を八年ぶりに復活させました。ぜひ、立派に成長した元気な姿を、お家の人や地域の方に見せてあげてください。

素晴らしい運動会になるよう、皆さんの活躍を期待しています。

(三次市立酒河小学校)

委り 教よ 県だ

子供たちが安心して学べる環境づくり

広島県教育委員会事務局 学びの変革推進部
教育支援推進課 課長 宮野 学

校長先生方におかれては、日々の学校生活の中で、子供たち一人一人の学びや生活の様子に目を配り、家庭の事情にも配慮しながら、学校運営に御尽力のことと存じます。とりわけ、経済的な事情を抱える家庭に対しては、子供の気持ちや保護者の状況に寄り添いながら、きめ細やかな対応を重ねておられるものと拝察します。

子供たちが、家庭の経済状況にかかわらず、自らの力を伸ばし、将来に向かって学び続けられる環境を整えることは、教育に携わる者に共通する願いである。「こどもの貧困の解消に向けた対策の推進に関する法律」においても、乳幼児期から高等教育段階まで、切れ目のない支援を行うことの重要性が示されている。

令和 8 年度は、公立小学校における学校給食費の抜本的な負担軽減、いわゆる高校授業料無償化に係る制度改正、高校生等奨学金給付金の対象拡充など、教育費負担の軽減に向けた取組が進んだ。こうした動きは、安心して学べる環境づくりにおいて、今後ますます重要になっていく。

教育支援推進課では、高等学校等就学支援金、高校生等奨学金給付金、高等学校等奨学金、学びの変革環境充実奨

学金などを中心に、教育費負担の軽減に関する業務を行っている。対象や手続はそれぞれ異なるが、いずれも、経済的な理由によって学びを諦めることのないよう、子供たちの学びを支えるための制度である。こうした制度を必要な支援につなげ

随想

校長室の卒業生

副会長 延近良祐

校長室には、いろいろな子供たちがやってくる。教室の中で落ち着かない子、九九を聞いてもらいにくる子、クルダウンをしにくる子など…理由はさまざまである。

二年前、教室になじめない子を校長室で預かることになった。その子は言葉が発することがほとんどなく、こちらの質問に首を縦に振るか横に振るか、まれに小さな声で単語を発する程度。心がモヤモヤしていると固まって動けなくなることも珍しくなかった。

算数の授業を一日一時間程度、校長や教頭が行った。それ以外の時間は、生き物などを顕微鏡で観察するためのプレパラートを作ったり、タブレット

るためには、制度内容や申請方法を分かりやすく伝えることが重要である。支援を必要とする世帯が安心して手続を進められるよう、引き続き、周知の工夫と丁寧な説明に努めるとともに、日々の業務を丁寧に進めていきたい。

今後とも学校や関係機関との連携を大切にしながら、支援を必要とする家庭に情報が届くよう取り組んでいく。全ての子供が、自らの可能性を信じ、安心して学び続けられる教育の実現に向けて、引き続き力を尽くしていきたい。

ケースを段ボールで作ったり、ジェット機の実際の長さを廊下で測ったり。一見、これらは単なる「お手伝い」のように思えるかもしれないが、その活動の中に、学年で学習する内容を盛り込み、個別の課題解決学習のようになればと考えている。その子も目を輝かせてのめり込んでくる。

わり、仲間を優しく受け入れる学級経営をしてきていたお陰で、やがて教室で過ごせるようになり、校長室を卒業していった児童の一人となった。この他、ひらがなの読み書きを頑張った子、担任に注意され癩癩を起して校長室にくる子など、通常・支援学級問わず、複数人の児童が校長室を卒業していった。(たまに帰ってきますが。)

学校には様々な境遇にある子供がいる。これからも、子供たちの可能性を信じ、一人一人の歩みに寄り添いながら、誰もが自分らしくいられる学校を創っていききたい。

(福山市立遺芳丘小学校)

あしがき

今年度の総会・研究大会は、文部科学省初等中等教育局主任視学官様による対面の講演をいただき、参加者の心に響く、意義深い大会となりました。

日々、様々な課題に向き合いながらの学校経営にご尽力されている校長先生方におかれましては、大変ご多用のことと存じます。そのような中、会報一九八号が発行できましたことは、ひとえに皆様方のおかげと心より感謝しております。

県連小広報活動が、皆様の学校経営の充実に資するよう引き続き努めて参りたいと思えます。一年間、皆様のご協力を宜しくお願